

令和 6 年度 第 2 回 九段中等教育学校 学校経営評議会 会議録

日 時 令和 6 年 11 月 27 日（水） 午後 13 時 30 分から 15 時 00 分
場 所 九段中等教育学校 九段校舎 会議室

内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 令和 6 年度 学校経営方針実現に向けた取組について
- 4 令和 6 年度 学校経営診断評価アンケートについて
- 5 その他
- 6 閉会

1 開会

○経営企画室長 それでは、皆さんおそろいですので、第 2 回の「学校経営評議会」を始めさせていただきます。

本日は、御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

評議会に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。

まず 1 点目、本日の次第。2 点目、資料 1 と振ってありますが、令和 6 年度学校経営方針実現に向けた取組（中間報告）。3 点目、資料 2 と振ってありますが、令和 6 年度学校経営診断評価アンケート、以上でございます。

過不足等ございましたら、こちらにございますので、お申しつけください。

皆様、資料のほうはよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、ここからは会長に議事進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○会長 すっかり冬になったかなと思ったら、今日は多少暖かくなって過ごしやすい気候になり、朝方まで雨が降っていたようですけれども、大分いい天気になって今日の開催ができるかと思います。

開会に先立ちまして、本日は千代田区立九段中等教育学校経営評議会設置要綱第 7 条に基づきまして、会議の公開というものに基づきまして傍聴者がおりますので、御報告をいたしたいと思います。

それでは、ただいまから令和 6 年度第 2 回「学校経営評議会」を開会いたします。

なお、教育委員会部長、指導課長、指導主事、副校長から御欠席の御連絡をいただいております。よろしくお願いいたします。

では、皆様の御協力に基づいて議事に入っていきたいと思いますので、まず初めに、九段中等教育学校を代表いたしまして、校長先生から御挨拶をお願いいたします。

2 校長挨拶

校長 皆さん、こんにちは。

本日は、御多用のところ、御参加いただきましてありがとうございます。

本校の活動については、この後また詳しく説明をさせていただきますけれども、まずは、報道等でも放送局はMXテレビですとか日テレでも放映されたのですけれども、イギリス大使館とのコラボ授業ということでオールイングリッシュのプログラム、サイバーセキュリティについての授業だったのですけれども、公開されまして、当時も全国から見学者も多くということだったのですが、生徒たちは非常によく取り組んでいる。オールイングリッシュだったのだけれども、難しい問題によく取り組んでいるということで、高い評価をいただいたところであります。

グローバル関係でいいますと、今月もオーストラリアのほうに9日間行ってまいりましたけれども、実はオーストラリアのクイーンズランド州の教育委員会から九段中等に向けて感謝状を頂いた。これは、長年にわたる協力、連携というところでいただいております。これもクイーンズランド州の教育委員会としては初めのことであるということで、また、オーストラリアの学校からも姉妹校提携をしてほしいというような話も来ておりまして、今、千代田区教育委員会とも協議を進めているところであります。

それから、教員の働き方改革も今後いろいろと重要になってくるのですけれども、月45時間程度をめどにということで国からも示されているところでありますけれども、これにつきましては、学校には7時以降に来てくださいというようなことで、早くても勤務時間1時間前以降にと。教員もそれで協力しながら働き方改革の意識を高めるということで行っておりますけれども、こちらについては先生にもいろいろとお世話になって、非常に勤務の長い教員もおりますので、面談をしていただいたりしながら、健康等に留意しながら進めているということです。

本日は、この後副校長から種々説明がありますけれども、また御意見等をいただきながら、今後の学校経営に生かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長 ありがとうございました。

それでは、お手元の次第に従い、進めてまいります。

3番目の「令和6年度 学校経営方針実現に向けた取組について」、この件に関しまして御説明をお願いいたします。

3 令和6年度 学校経営方針実現に向けた取組について

○後期副校長 よろしく願いいたします。

本日、前期副校長が欠席なので、私のほうから全て説明させていただければと思います。まず、資料1の最初のところから説明させていただきます。

中間報告、知の創造部、主に学習面、教務的な内容を扱っている分掌になります。主に

教科、学習に関することですので、取組としては、まず項目の2番のところになると、選択科目等で6年間で一気に通貫した教育カリキュラムを進めるに当たって、来年度の選択科目等を教科会または教科主任会で検討を重ねて、来年度、生徒一人一人の進路実現を果たせるように開講講座を設定、そして、現在各学年において、5、6年生において選択科目の調査を進めているところになります。

3番のところにもありますが、教科会、教科主任会は月1回程度実施しておりまして、各教科での課題点ですとか学校全体としての取組といったところを共有、そして、検討しつつ、学校全体に周知していく。そういった取組を進めております。こちらについては今後も進めていくことになります。

続いて5番目のところなのですが、今年度から不登校生徒に対して学習機会を確保して、誰一人取り残さない学びを実現するという千代田区の教育方針もございますので、こちらのほうは現在4月から体制を整えて行っております。具体的に申しますと、その具体的な取組にSSLと書いてあるのですが、スクールライフサポーターという会計年度職員の方をつけて、不登校、なかなか学校に通えないという生徒に対応しているところになります。部屋としては、SSR、スペシャルサポートルームといいまして、富士見校舎のほうに1室設置しており、学校に足を運びやすいような環境づくり、そういったところをまず体制を整えて、まずは学校に来ようというところから寄り添いながら支援を行っているところです。生徒の状況によっては来れたり来れなかったり、継続的に来れている者もいれば、なかなか継続できないというところもあるのですが、スクールライフサポーター、また、担任、あと、スクールカウンセラーと連携しながら学校に通えるように、今後もこちらの取組については継続してまいります。

6番のところについては、ICT化を進めておりまして、本日も新しい端末との入れ替え作業がこの後続いていくのですけれども、ICT環境をうまく活用して、今まで紙で配付した資料などもデータ化して共有できるように、そういったところも今後引き続き取り組んでいくところになります。

知の創造部については以上になります。

裏面には今後の課題としてありますが、御確認いただければと思います。

続いて、豊かな心の育成部になります。生活指導の面に関するものになります。

こちらにつきましては、2番に望ましい人間関係の中で自主・自律の精神を養うというところがありまして、自分でよく考えて自分のことを管理し、そして、社会に旅立ってほしいという願いから、生徒主体で委員会活動を充実させてということで力を注いでいるところになります。

ですので、1番の具体的な取組のところ、ポツの2つ目になります。学校行事でのリーダー育成というところで、体育祭、あと、九段祭、文化祭を実行しましたが、実行委員の生徒主体で生徒の執行部を中心に各生徒に取り組む内容を伝達して、本当に生徒がつくり上げていく。そういった行事が実現できたのではないかと考えております。外部の方から

も非常に好評でした。

続いて、項目の3番になりますと、不安のない学校生活の実現ということで、やはり学校生活に不安を抱える生徒はおりますので、そういったところを見逃さないよう、教員同士で共有できるように、拡大部会、各学年の生活指導担当、そういったところと支援員さんを交えて支援が必要な生徒、あと、気になる生徒を共有しつつ、学校全体で見守っていかうという流れで進んでおります。

こちらは今後も継続してまいります。

4番については、部活動についても、外部指導員、あと、外部委託というところを進めておりまして、利用している部活動についてはサッカー部ですとか卓球、水泳など、いろいろ外部指導員はあるのですけれども、顧問の負担の軽減につながっているところです。

豊かな心については以上になります。

3枚目になります。未来貢献部、こちらは進路に関わる分掌になります。

こちらについては、1番のところになると、新しい教育課程における大学入試の趣旨、方向性を踏まえということで、新しい教育課程に移行して今年から情報の共通テストの入試科目等も入っております。そういったところも踏まえて、しっかりと外部の研究会等にも参加して、情報を生徒に進路ガイダンス等を通じて共有して、新しい体制の中で、新課程の中でもミスマッチが起きないような指導を心がけて展開しております。

2番につきましては、模試も定期的に行っているのですが、模試分析会というところで、各教科の先生方にも、今回の模試についてどこが弱点であったかといったところを把握するための分析も行っておりまして、その結果についても進路通信という形で生徒に共有する体制を取っております。

3番については進路指導データの整理・分析ということで、これまで九段の卒業生はいろいろと進路実現を果たしておりますので、そういったところを踏まえて後輩にも受け継がれるように、現在6年生のところで進路指導を充実して行っているところです。

4番目も、各サポーターさん、自習室サポーター等では卒業生なども力を貸してくれて、よく面倒を見てくださっていますので、そういったところで6年生の進路を支えているところになります。現在、6年生は本当に総合型選抜の入試も始まってきましたので、面接指導、小論文指導等、学校一丸となってサポートしているところになります。

未来貢献部は以上になります。

続いてSMP部、こちらは主に広報を担当するところになります。こちらにつきましては、今までは、千代田区内の小学校にいろいろと学校で授業公開がありますよというところを5、6年生を対象に周知していたのですけれども、もう少し早い段階から九段の魅力を伝えようということで3年生から広げて、各学校に学校説明会とか学校紹介等のポスターの掲示も御協力いただきながら、広報活動を進めているところです。

各学校説明会は3回ほど行ったのですけれども、どの回も多くの方々に参加いただいて、九段への興味、安心が高いところがよく分かる会となっております。

学校説明会以外には、2番のところのちょうど真ん中辺りなのですが、天体観望会というのを実施しております。地域の小学生を招いて、夜に保護者の方も一緒に参加していただいて天体を観測するという会になっております。こちらについても応募倍率が非常に高く、なかなか当選しなくて、当選した方の中ではやっと当選しましたと言って喜んだきらきとした笑顔も見られて、ぜひ九段に入りたいというような声も多くアンケートにも書かれております。こういった取組も今後継続してまいります。

今年度につきましては、4番、広報活動の効率化を目指すということで、今まで天体観望会の応募とかも往復はがき等で行っていたのですが、そういったところがインターネットからできる環境も整いましたので、環境を整備して、教員の業務負担軽減という面も徐々に進んでいるところになります。

SMP部は以上になります。

続いてCNV室、こちらが各分掌の最後になります。こちらはCreate New Valueということで、新しい価値を生み出すというような先進的な取組を九段に取り込もうと、今、力を注いでいる分掌になります。

1番のところにございます文科省の指定事業であるリーディングDXスクール、生成AIパイロット校に指定されておりますとか、DXハイスクール事業のほうも指定を受けておりますので、生成AIの授業への導入ですとか、あとは校務、具体的に言うと保護者宛ての文書のたたき台をまず生成AIに作ってもらおうとか、そういったところでいろいろ業務負担が軽減できないか取り組んでいます。

新たな教育プログラムというところでいろいろな先進校視察も行って、九段にマッチングさせたような新しい教育プログラム、こういったところも力を注いでいる分掌になります。具体的に申しますと、2番になります。今年度から九段探究プランを設定しまして、探究を主軸に置いて、そこに各教科学習の中を結びつけて生徒を成長させていく。そういったプランを掲げております。ですので、CNVを中心として、各学年が独自にやるというわけではなくて、学校で足並みをそろえて、6年間を見据えてしっかり探究する姿勢ですとか、教科の学びをどうやって結びつけるか。そういったところも考えながら、カリキュラムを現在も検討しつつ、いろいろ開発している部署になります。

3番につきましては、校内の教育プログラムの開発もちろん力を注いでいるのですが、海外にも視野を広げて、グローバル教育のほうも探究プランの一つの柱になっておりますので、来年度からシリコンバレーの海外研修、進んだ最先端の技術を学ぶ機会を設定することで、今年度は実施調査を行いまして、来年度からの実施に向けて現在準備を進めているところになります。

CSVはそのような形で、今後も先進的なところを視察しつつ、より九段を充実させるために今後も力を注いでいくことになります。

ここまでがそれぞれの業務についての御説明です。

○会長 どうもありがとうございます。

ちょっと長くなってしまうので、ここのところで一回区切って質疑を受けたいと思います。御質問がある委員はいらっしゃいますか。

○委員 1 ページ目の知の創造部の5番目です。スクールライフサポーターと連携ということですが、まず第1点目は、どのような資格を持った方あるいはバックグラウンドを持った方が取り組まれているかというのを教えていただきたいなど。それから、2番目のところにも関わってきますけれども、今どれぐらい不登校の方がいらっしゃるのかという数字の面ですね。あと、本当にいわゆる授業日数とかが不足してきた場合の対応といいますか、例えば授業には出なくても、レポートあるいは代替のテストで単位を認めるとか、そういった取組をされているかどうか、この3点を教えていただけますでしょうか。

○後期副校長 ありがとうございます。

まず1点目につきましては、千代田区のほうで募集をかけておりまして、教育関係に携わっているような方であるですとか、そういったところから選考を経て各学校に配置されています。現在本校に勤務されている方は、以前中学校のほうで勤務されている方ですので、そういったところの知見も経験もありますので、担当のほうとも連携を取りながら、あと、生徒のほうも距離をいきなり縮められてもそこで恐怖心を抱いてしまうとか、そういったところもよく御理解されているので、本当に生徒の様子を見ながら寄り添った形で支援いただいている方になります。

2点目については、前期課程のほうの方がやはり不登校傾向の生徒が多くて、大体学年に3～4人ぐらいですかね。後期になると少なくなってくるのですが、必ずしも全員が全員このスクールライフサポーター、また、スペシャルサポートルームを利用できるかという、またなかなかそこまでもつなげられないところもあるので、学年としては何とか学校に足を向けてもらいたいというところで取り組んでいるところではあります。

3点目につきましては、欠時のところについてはスペシャルサポートルームに通っていて各教科の担当から課題をもらう形になっておりまして、スクールライフサポーターの方が来たときに渡して行って、これをいついつまでに仕上げてきてねというやり取りを進めながら、そこで欠時については配慮するという形でやっております。

でも、ここも毎週定期的に来られたのですが、やはり季節の変わり目とかでなかなか来られなくなったという場合もあるので、そういったところも評価担当に伝えながら、であれば、また次の課題があるのでいついつまでにやってくださいねというようなやり取りは進めているところになります。

○委員 大体本人のパーソナリティによるところが多い感じでしょうか。それとも、学校の行事ですとかクラス内のトラブルとか、そういうので来られなくなったという事例はあるのでしょうか。

○校長 トラブルはないですね。トラブルとかいうか、今度はいじめの問題になってくるので、違う問題に派生していきますから、今の補足をする、学習指導要領上、不登校

の生徒に限って64単位まではオンラインでの出席を認めていいよというのはできたのですけれども、その規定がある前からオンラインなどで入った場合には出席とみなしていきますよということで私のほうでそれは配慮していますので、そういう形で入っている生徒については、欠時、いわゆる未履修問題というのは発生しないような形では行っています。ただ、SSRに来られるかという、先ほど副校長からもありましたけれども、学校に出てくると自体が厳しいところはあるので、そこは丁寧に担任なども手を尽くしているという状況です。

○委員 前期の方々はこちらの九段校舎にクラスがあるので、それを避ける形で富士見に来てもらうというイメージでしょうか。

○後期副校長 そうですね。

○校長 箱がこちらにないので、向こうの進路室の準備室等を潰して、そこを部屋に変えたという形になります。

○委員 分かりました。どうもありがとうございました。

○会長 よろしいですか。では、ほかに。委員、どうぞ。

○委員 今のあれで続けてですけれども、人数は3～4人とかというお話がありましたが、他校に比べてどうなのですか。

○校長 人数は多いというわけでもないかなとは思いますが。

○委員 私は少ないのではないかなと思うのですけれども。

○校長 後期課程になると少なくなるというのはどうしても履修の問題が出てくるので、そこで何とか出てきたり、気持ちを入れ替えて出てくる生徒も増えてくるというのはあるかなと思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかにいらっしゃいますか。

○委員 CNVのところですが、シリコンバレーで研修をされているということで大変すばらしいと思いますが、これは何年生ですか。

○校長 なるべく早い時期にこういった感覚を持ったほうがいいだろうということで、一応対象としては中学校2年生から高校2年生、いわゆる2年生から5年生までを対象としていいのではないかなというところで今進めています。Google本社の中まで今回も入らせてもらったり、なかなか入らせてもらえないのですけれども、ネットワークの中に入れてもらったりとかもあるのですけれども、そういったものに直接触れさせて、ゼロから何もないところでアイデアを形にしていくというのはどういうことかというのを考える生徒がいろいろ出てきてもらえるといいかなと思います。

○会長 ほかにいらっしゃいますか。

○委員 未来貢献部の1番ですね。海外大学進学に関する質問なのですけれども、希望者が増加しているということで、大体どれぐらいの方が希望されているのか。あと、国区内の大学との併願も考えていらっしゃるのか、この辺りの状況を教えていただけますでしょ

うか。

○後期副校長 昨年度は海外大学に進学したのは4人かな。たしか台湾、アメリカ、忘れてしまったのですが、そこが実際に合格した後、行っています。現在は5年生のところで、本校はバンガー大、IFUと提携をしているので、先取り学習というところで、5年生の段階から海外大学進学を目指して、今プランに臨みたいという生徒が実際に出てきているので、そういった点では一定数はいるのかなと。ただ、各年度によってやはり生徒の志望も変わってくるので。

○委員 今の5年生だったら何人ぐらいというのは。

○後期副校長 今のところ、私が聞いているのは、5年生で制度を利用するというのは1名だけです。

○委員 1名でも増加という表現が使われるのかどうかというのは。

　　というか、今、かなり円安になっているので、海外留学は資金負担がかなり多いのではないかと思ったりもしていて、国内と学費の面ではかなり格差が出てきてしまっているのかなとか、今どれだけ人気が上がっているのかなというのは実態を知りたかったなと。

○後期副校長 実際に興味はあるのですよね。

○校長 そうですね。毎年5～6人は希望していると思います。今、5年生で具体的に言っているのは、バンガー大学は5年生で受験できるので、そこではっきりと明確に出しているというところですね。海外の大学に進学するときに、トビタテ！留学JAPANなどもあるので、そういったいわゆる奨学金ですよね。それに受かっている生徒も結構いるので、割とほぼ全額負担してくれるとか、実はバンガー大学も、奨学金などの制度もしっかりとしているので、そういったところで行く生徒は多いかなと思います。

　　バンガー大学の場合には、国内の国立大学の合格発表を待ってから進学、志望を最終的に決定していいですよということは言ってくれていますので、これは非常にメリットがあるところかなと。

　　もう一点、ダブルディプロマ制度の調印をしたのですけれども、アメリカにあります、ボストンあたりかな。プロビデンス・カントリー・デイ・スクールという欧米系の非常に優秀な、ハーバードとかいろいろ卒業生を出しているのですけれども、その卒業資格も得ることができるということで、九段の卒業とともにそういった契約、これは公立第1号ということで向こうの方々も非常に着目していて、プレスしたいなぐらいは言っていますが、そういった制度も活用していくと、今度は国内では帰国子女枠での受験ということも可能な大学も多々ありますので、そういったところで九段を卒業した生徒の選択の幅は非常に広がっているかなと思います。

○委員 ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。

○委員 では、もう一つ。進路のほうで未来貢献部のところの1番、新しい教育課程における大学入試の趣旨や方向性ということで、今、都立高校でもなかなかできないのですけ

れども、新しく情報Ⅱの科目を必修として課しているわけですが、九段はどのようにしてこれを工夫しながら進めようと計画されているのでしょうか。教えてください。

○校長 今、教育DXハイスクールは情報Ⅱを必修としているので、それで申請しているのですけれども、全員ということではなくて希望生徒で、今年度は実は希望者が少なかったということで開講していないのです。ただ、来年度は大学で情報Ⅱを必須にしているところを希望する生徒がいて、7人ぐらいいます。なので、来年度は開講するというところで、情報Ⅱの内容というのは結構高度なので、それを指導できる、本校の教員は指導できるのですけれども、今後そういったところが難しくなってくるのかなと。ただ、うちはイーアセスメントの指定校でもあるので、今年度限りなので来年度のこの予算はつかないののでできないのですけれども、これは共通テストの情報についての内容等の協力校ということで、ある程度うちの生徒たちは恵まれている環境にあるかなとは思っています。

○委員 ありがとうございます。

○会長 よろしいですか。

○委員 私も同じようなところで一応お聞きしておきたかったのは、まさにグローバル化ですばらしい取組と思いますが、今後、海外の大学に行く方が増えて、その辺のメリットというのがどこにあるか。要するに、海外の大学を出た後にどういう仕事に就いていかれるのか。その辺まで見えてこないとより多くの人々がチャレンジしていかないのかなと思いますので、まだこれからだと思いますけれども、ぜひその辺のアウトカムというのを出示していただくと参考になるかなと思います。

あと、話が変わりますが、産業医の立場として、最近、残業時間が少し減ってきたということで、私も少しほっとしておるところですが、ぜひ部活を中心とした、特に日曜日に帯同しなくてはいけないとか、そういうところも勤務時間内とかに入ってくるとなかなか残業を減らすとかというのは難しいところですので、積極的に新しい取組をして先生方の負担を減らしていただいて、授業に集中していかれるような体制をつくっていただければと思っています。

私は以上です。

○会長 ありがとうございます。

ほかはよろしいでしょうか。

○委員 CNVのところにあります教育DXのところですが、生成AIをDX校として取り込まれているということなのですが、生成AIは便利ではあるのですけれども、かなり誤った情報も入るということで、誤った情報を見抜く力というのが大事だと伺っています。こういったものの使い方のガイドラインですとか、そもそもそういうものであるという指導というのはどのように行われているのかなというのを伺いたいというのが一点です。

○校長 情報の授業を中心に行っていますけれども、中学生から使えますので、それも全部ホームルーム等を中心に、CNVを中心に指導しています。

生成AIなのですから、ChatGPTのような外部等のものも全部含まれているというこ

とではなくて、企業と契約しているのですけれども、外からの情報は入ってくるのですけれども、この学校の中でやった情報は外に出ないというシステムの中での生成AIなのです。生徒などはいろいろ試しています。こういう質問をしたらどう回答が来るのか、そこが間違っているのかどうかって自分たちでいろいろと試しているのも面白いですね。生成AIを使うことによって、質問力とか対話力がすごく高まるのです。質問が悪いという回答が来ない。そういう状況で、それを生徒はわざと試している。ここが間違っているのがこういうふうに出てきましたという報告をしていますので、そういった意味では非常に活用されていて、ChatGPTは年齢制限はあるのですけれども、本校でやっているのは先ほど言ったようなシステムですので、年齢制限なく使えるようにということで、教育の中でもそうですけれども、先生方の校務の支援ということでも使っています。

多分生徒はそのうち九段の何年生の何の教科のテスト問題を作ってほしいと出すのではないかなと。今までの資料などを入れてそういうのを作ってくるかと思うので、それを上回るような教員もやっているというところなのかなと思います。

○委員 それに関連して、2番の探究のところですけども、探究が進むと、いわゆる高校のカリキュラムを超えた研究をされる生徒も出てくるところかと思うのですが、それに対応できるような、指導するほうもそれがうそかどうかを見抜けないというか、ある意味専門教育を受けた人の指導を受けなければいけなかったりするような局面も出てくるのではないかなと思うのですけれども、その辺りの取り組み方とか、今、いろいろな委員会もつくって活動中ということですけども、どのような御検討をされているのか教えていただけますでしょうか。

○校長 そこが一番教員が懸念するというか、先生というのは教えることに一生懸命なのです。自分が教えられる内容でないと、逆に不安でしょうがない。だけれども、私はそこは教えなくていいよと言っているのも、一緒に研究してあげればいいのだから、どこがどう分からないところがあるのかということは何でかなというヒントを出してあげて、一緒に寄り添ってあげる。探究については教科指導ではないので、それでいいよと言っているのです。だから、自分で大学に行って質問したり、そういったことは生徒自身がどんどん伸びていきますので、そこはそういった形の中で進めていくということで、それが探究。でないと、探究を狭めてしまうのです。先生が異動してしまうと、専門の先生が来なければその研究はもうできなくなってしまうということはあってはならないので、生徒は自ら学んでいく。それに寄り添うというような形かなと思っています。

○委員 やはり一緒に研究するというか、助言をして研究の仕方を一緒に考えてあげるというわけですね。

○校長 そうですね。こういったところはどうなのだろうとかと一緒に考えるというのでいいのではないかなと思いますけれどもね。

○会長

私も2つばかり確認したいのですが、先ほど不登校の生徒が学年に3～4人いらっしゃ

るというお話がありましたけれども、これは経年で見ると、昨年度よりは減っているとか、何年前よりは減っているとか、その増減というのはどういう傾向にあるのですか。

○校長 横ばいではないですかね。なかなか難しいです。学年によってはゼロというときもあるのですよね。だけれども、多少なりの増減はあると思います。

○会長 あと、海外の研修とかそういうようなお話が大分ありまして、CNVの3番目のところですか、海外研修旅行、全員実施の3年と5年の海外研修旅行等、生徒さんにとってはいろいろなチャンスに恵まれているのだらうと思うのですが、費用的な面ではこれは全て保護者さんの負担ということですか。

○校長 そうです。受益者負担になりますけれども、ただ、千代田区からも補助をもらっていますので、多少なり経費の軽減はあります。

○会長 区からの補助がきちんと整備されているという考えで。

○子ども総務課長 よろしく申し上げます。

宿泊に関しての費用補助といったものはしておりますし、あと、今年度から新たに教育ローンをお借りした際の利子補給金、年間10万円までを限度にという形のものを来年の1月から実施する予定でございます。総額400万円までで7年間でお返しいただくという仕組みを今考えて、またPRに努めていきたいと思っておりますので、そうしたものも使っただきながら皆さん方の学習の支援をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○会長 やはり生徒にとっては、いろいろチャンスがあっても、そこに手が出せるか出せないかというのは家庭の環境とかそういうのもありますので、ぜひその充実をよろしくお願いいたします。

○校長 ちなみに3年生はオーストラリアで四十何万ですよ。50万は行かないぐらいですかね。それから、5年生がシンガポール、これも全員行きますけれども、多分来年になったらもっと上がると思うのですが、大体30万ぐらいですね。シンガポールの高いので、要するに、夕食をつけてしまうと平気で一食5,000円ぐらいになってしまうので、それを全部つけると相当な金額になっていきますけれども、日本がそれだけ安いのです。逆転しています。

○会長 今おっしゃられた金額のところにも、区からの支援、補助というのは使えると。全くそこは個人負担。

○校長 ここは個人負担になってくるのですけれども、ただ、生徒的にいうと家庭の状況がいろいろあるので、それによっては制度を活用している。特に前期課程は各所属している区市町村によっての補助もあるので、そういった申請で補助されているというのはあります。

○会長 いずれにしても結構な金額だなと思います。ありがとうございました。

どうぞ。

○委員 補助ですけれども、大学サイドから、うちの大学だけではなくてほかのところも

含めてですけれども、円安で1年間行かせると、物すごく安いところを選んでいるのですけれども、授業料等、総費用でいうと1.5倍から2倍ぐらいかつてより上がっているものですから、やはりそこが我々も留学をさせる学生に対してどうやって対応するかというのが一つの課題となっているのです。

それはそれで置いておいて、例えばサマースクールで、今、会長がおっしゃったようにケンブリッジに大学から数十名送っているのですけれども、やはり大学からその一部を補助させておきまして、そうしないと、簡単に行きたいから親に行かせてという、夏休みに2週間か3週間で例えばケンブリッジ大学に行かせると、下手をすると3週間、4週間で100万行くのですよ。それを70万ぐらいにしたいとか、ちょっと下げるためには、多少補助金とかを出さないといけなくなるような状況に今なっているというのが一つございます。

それから、2つ目で、あまり長くやるとあれなのですが、実は先生がおっしゃった就職なのですけれども、普通の私立の文系、早稲田も慶應もそうなのですけれども、今、学生が一番忙しいのは何年の何月ぐらいかというと、3年生の5月、6月がめちゃくちゃ忙しいのです。なぜかという、3年生の夏休みに長期でインターンシップに行くと、そこで大体大企業は目をつけて囲い込みをして、それで就職させるのが上の大学の大きな流れになっていて、リクルートやほかのマイナビなどもそういう流れになっているのを公に、インターンシップに行かないといいところに就職できないということになっているのですよ。こういう流れになっているものですから、では大学でいつ留学させればいいかと。1年間とか2年間、ちょうど2年から3年とか、その辺とインターンシップが重なるのですよね。そうすると、やはり先生がおっしゃったように、バンガーに行かせるとか、高校を出てから今度行かせて、違うカテゴリーで就職だのいろいろな進路とかを考えるほうが、大学に、例えば早稲田、慶應に入れて、たった1年行かせるのにTOEFLとか準備しないといけないですから、そうすると、ちょうど今言った3年の夏休みぐらいというのは、あちらは9月から始まって帰ってきたりして、なかなか中途半端で我々も企画ができないのですよね。そういう時期にちょうど移行期でなりつつあるのです。

ですから、先生がおっしゃったバンガーとかいろいろな大学に高校から行かせる学生がもしかしら増えるかもしれないという懸念と、大学の留学が簡単に行かせるという感じで今言った財政的な問題が出てきましたので、先生のように、さっきあちらの大学に行って頑張ればあちらで奨学金をもらえるから、最初の1年間だけ初期費用がかかるかもしれませんが、まずはバンガー大学に行って奨学金をもらったほうが結果的によかったりということもございますので、やはり海外に行かせる留学が大学側でも今迷っているとか、例えば早稲田などは何千人も行かせるとか、それで国際何とか学部とかをつくって、スノーデン先生というのがバンガー大学で国際教養学部の元をつくられたのですけれども、そんなことがこのインターンシップの関係で本当にできるのかなとか、そういう移行期に大学側がなりつつあるのです。例えばうちのような中堅大学でも、大学の3年生の

5月、6月が忙しいなんてええっと最初は思っていたのが、みんなその頃がどこにも行ってはいけない、インターンシップに行かなくてはいけないとかとなってしまったので、ですから、先見的だと思います。高校から行かせるものとか、バンガーとかも一つの道として、多様性の中で可能性を広げるような、そういう感じに少しずつなっているということだけ御説明させていただきます。

○会長 ありがとうございます。

それでは、続きまして、残りの学年のほうについて、後期副校長、よろしく申し上げます。

○副校長 また説明させていただきます。

第1学年のところを御覧ください。小学校から中学校に入学し約半年たって、徐々に学校に慣れてきたかなというところの学年になっております。

まずは大切なところとして1番の学習ですね。しっかりと学習について向き合えるように、まずは習慣づけをしっかりとさせようというところで学年は取り組んでおります。

2番目の生活指導については、新しい環境になってきますので、そういったところでトラブルが起きないようにということで複数で担任は接しておりますので、細かに生徒の様子を配慮しながら見ているところになります。

3番目の進路指導については、本当に中学校入学したてかと思いきや、6年後を見据えていこうというところで、今、6年後に自分の進路実現を図るために、この先自分が活躍するためにどういったものが必要かなということを考えさせる指導をしているところになります。

1年生については以上になります。

続いて、裏面の2学年になります。こちらについては、九段の生活を1年間終えて、学校生活も慣れてきた学年ですので、もう一回生活態度のところから見直していこうということで、2番の生活指導ですね。5分前登校とか2分前準備、そういったところを1学年から引き続き継続して行って、生活リズムを崩さない。そういった中でしっかりと学習についても向き合わせようということで、1番の学習指導のほうも展開しております。現在は落ち着いて学習できるように、ホームルーム委員を中心に話し合いながら、授業規律を保った中で取組を進めているところになります。

3番の進路指導については、様々な行事にも積極的に関わって、あと、大使館訪問など、この千代田区にある学校ならではの外部との連携もありますので、そういった経験から海外に視野を向けて、将来はどうか、そういったところも考えさせる取組を進めています。

2学年については以上です。

続いて、3学年になります。こちらになると中学3年生の段階なので、この後、高校入試を見据えてというところでしっかりと集大成でまとめるぞという学年になります。九段ではしっかりとそういったところを意識させて、基礎学力がしっかりとついているか。さらに、

先取りの学習もしているので、スムーズに高校への学びにもつなげられるようにということ指導を続けているところになります。

3 番についてはKPBLということで、Kudan Project Based Learning、探究においてスムーズに課題解決に向けて自分の問いの設定からどのような手法でいくか、そういったプランを設定していますので、探究活動をより 4 学年になって本格化できるように指導し準備しているところになります。

3 学年については以上です。

続いて裏面の 4 学年です。こちらは高校 1 年生の学年になります。

こちらについては、より進路を本格的に意識するところにもなっておりますので、学習はもちろん自分で計画を立てて、道筋を立てて学びを進めていくということも取り組みつつ、あとは 3 番の進路指導については、大学入試の状況も伝えつつ、進路をより深く意識させていく。そういった取組をしております。

2 番の生活指導については、4 学年は九段の中では非常に大きな行事であります至大荘行事もありましたので、そういったところを経験して仲間との絆も深められたというところになっております。至大荘については、生徒のアンケート等を見ても、非常に充実した行事であったとか、全く泳げなかった生徒については、プールでの訓練期間も含めて、実際に海に出て泳ぎ切れて、非常に自分の中では達成感を得られたというような声も多くあった行事にはなっております。九段祭についても、高校段階に入ることができることが多くなってきたので、そういったことから仲間との意識をより深めるきっかけにもなったところであります。

ただ、ちょっと気になるところはスマートフォンの利用です。正しい使い方ができるようにと学年集会等を開いて、今後も指導を継続していくということになります。

続いて 5 学年になります。こちらは高校 2 年生の学年になります。こちらについては、シンガポールの研修旅行等も経験して、九段の中心学年としていろいろなところで活躍している学年になっております。

1 番のところでいうと、九段祭においては非常に各クラスが創意工夫した劇づくりに取り組み、台本から考えていって、私も見ようと思ったのですがけれども、なかなか全部が全部見られなくて、行列ができていて入れませんと言われたようなところも多くて、非常に生き生きとした表情で劇をしている様子が見られたところです。

あと、2 番、3 番につきましては、定期考査の後、しっかりと振り返りをさせて、自分の弱点はどこなのか、そこを補完しつつ、しっかりと抜けがない学力を身に付けて、進路実現を果たすために 6 年生への準備を進めているということになっております。

5 学年は以上です。

最後の 6 学年になります。

こちらにつきましては、体育祭で自分が九段でやってきたことを全てぶつけて、体育祭の中では中心として後輩を引っ張っていく姿が見られました。そこで自分たちの中ではし

っかりと気持ちの区切りもつけられたようで、体育祭が終わった後から自習室に通う生徒も増えてきて、現在は8時まで自習室は開いているのですけれども、最後のほうまで、最近5～10くらいですかね。大体平均して10弱ぐらい8時までには利用している生徒がいるので、その前はもう少し利用率も高かったりするのですけれども、そういった形で進路への意識が大分固まって、本腰を入れて受験勉強に臨んでいるという様子が見てとれます。

3番の進路指導については、担任のほうでしっかりと三者面談を行って、不安なく本番を迎えられるようにという体制を整えて指導して、九段を無事卒業し、社会で活躍できるようにと指導を継続してまいります。

各学年については以上になります。

○会長 それでは、この学年についての御説明に質問等はございますでしょうか。

○委員 今回配った資料はこれで以上でしょうか。前回のこの委員会の中で至大荘に関する検討状況の経緯についての説明をお願いしたいということで依頼していたと思うのですけれども、そちらのほうの状況はいかがでしょうか。

○会長 それは今の学年の中というよりも、この後のその他の質疑のときでもよろしいですか。

○委員 前はよく分からないということで委員もおっしゃったし、私は一部同窓会として聞き及んでいたところもありますけれども、ほとんどの方はこの出ている、P.A.長は知っているかもしれませんが、何があったのかというのが知らされていなかった。実際に7月時点では私も知り及んでいなかったのですけれども、6月25日に教育委員会での御説明とか、7月には文教委員会の中で区議に説明されていたり、9月にも予算委員会で至大荘のいわゆる事業者の参加者に対する説明というのが行われていたのですけれども、この中でも何でそのような事態になったのかとか、できれば丁寧に説明していただきたいという申し入れをしていたと理解しております。

伝統行事という以上に、やはり至大荘に行って初めて九段生になるといったお話ですか、世代を超えてあそこで経験したことについてのコミュニケーションというのが卒業後の卒業生同士のコミュニケーションの重要な役割を担っているということでも非常に大事な行事と理解していきまして、それが変化していくということについては、時代の流れでやむを得ない部分もあると思うのですけれども、少なくともこの評議会の中で検討経緯ですとか、どういうふうな判断で何が起こったのかというのを御説明する機会を提供いただければと思っておりました。それについての御判断というか、説明をお願いしたいと思います。

○会長 今、委員から御質問がありましたが、至大荘行事についての総括的な説明を受けたいというお話だと思うのですが、それについては、1学年から6学年までのこの中間報告の中身を処理させていただいた後に、その他の項目のところでその質疑についての御回答、御説明をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○会長 それでは、ほかの御質問はありますでしょうか。第1学年から。

委員、どうぞ。

○委員 第1学年、第4学年のところにスマホ利用という点があるかと思います。1年生は何となく分かるのですが、4年生は息子の学年なのでちょっと残念だなと思いながら聞いておりました。いずれにしても、学校のほうで御指導いただいていることは本当にありがたいなと一保護者と思っていると同時に、学校で生徒たちにいわゆるガイドラインを示すのであれば、保護者にもそれを共有していただきたいなと思っております。子供にとってダブルスタンダードより、やはり学校でも家でも同じようなことをルール、マナーだと言われていたほうが、子供にとってはシンプルで分かりやすいかなと思っております。家庭教育も大事な教育の一側面だと思いますので、そういったところを共有して、ぜひ一緒に子供たちのために動けるように保護者会としてサポートできたらなと思っておりますので、御検討をお願いいたします。

それから、全般的なところで言いますと、今、後期副校長先生からお話しいただいた内容ももちろん大切なのですが、さすがだなと思っているのは、下書いてある課題だと思っているところという点です。この辺をぜひ次回振り返りとかというような形で御説明いただけると、書いただけではなくて進捗が分かるのでよりいいかなと思いました。本当に素晴らしい課題を書いているので、これが実際にどうだったのかというのを次回振り返れたら非常にいいかなと思いました。

最後になのですが、先ほどから海外留学のお話があるのですが、千代田区の方がいらっしゃるの、せっくなので、東京都立の学校は次世代リーダー育成道場みたいなもので海外留学をいわゆる教育委員会としてサポートしますというのがあると思うのですが、ちなみに千代田区はそういうのがあるのか、もしくは今後考えているのか、参考までにお聞かせいただけたらと思います。

○子ども総務課長 取りあえず私のほうから。都立のような次世代リーダーの海外研修みたいなものは、今、千代田区ではやってはいません。以前はイギリスのウェストミンスターに中学校2年生だったかな。2年生をお送りする相互交流という形ではやってきたのですが、コロナ禍をきっかけにその相互交流が今なくなってしまうといったところはございます。ですので、今、中学生を主題に考えているのは、今年度から始めた小笠原のほうとの教育連携というのをやっておりますので、今年の7月下旬から8月上旬にかけて5泊6日で中学校1年生から3年生を対象に今回15名選抜させていただいて、1名インフルエンザで行けなかったのですが、14名の方と一緒に私も指導主事も一緒に小笠原のほうに行かせていただいたといったところでございます。ですので、海外のほうは今やっていないという状況でございます。

○委員 承知いたしました。ありがとうございます。

○校長 今の次世代リーダーは、年間80万払うと1年間行けるのですよね。東京都の事業で、前は千代田区、九段も対象となっていましたけれども、私立も、今、東京都が都立

だけだとなってしまったので。

○委員　ちなみに、それは何年前からなのですか。

○校長　都立になってからですか。

○委員　東京都立だけになったのは。

○校長　都立だけになったのはもう結構なるのかもしれないです。数年、東京都の事業ということで、何とかそこに入れてくれないのと東京都の教育委員会にも言っているのですが、なかなか難しいところがあるようなのです。

○委員　ありがとうございます。承知いたしました。

○会長　ほかに御質問はどうでしょうか。

○校長　先ほどのガイドラインですけれども、あれはホームページには載せていないのか。ただ、簡単に自治会との話でどうするという形で決めて、生徒はめちゃくちゃ厳しいルールをつくってくるのです。それだったら使えないのではないのというほぼ使えない状態で持ってきて、それよりもっと緩やかな形というか、使いやすくしたらどうなのということで、基本的には授業の中で学習に関することについての検索で使用するということが主となっています。なので、ゲームをやったり何かかんとかというのはお互いに規制はしています。それはやっちゃいけないんじゃないのと周りでやっていますけれども、ただ、このガイドラインに限らず、いろいろな通知が保護者のほうまではなかなか行かないというところがあるので、実は九段の情報に関するシステムが今がらっと変わっている状況の中なので、そこでうまく保護者にも通知をできればなというところはあるかなと思うのですけれども、ありがとうございます。

○委員　よろしくお願いします。楽しみにしています。

○会長　よろしいでしょうか。

それでは、続いて、学校経営診断評価アンケートについて。

4 学校経営診断アンケートについて

○後期副校長　よろしくお願いします。

そうしましたら、資料2を御覧ください。

学校経営診断評価アンケートというところでお示しさせていただきました。昨年度の議事録の中で、先生方からなかなか現場で見えていないところもあるので評価しづらい、回答しづらいという御意見もいただいていたのですが、令和4年、5年と比較できるような形でアンケートを作成しておって、今回は6年で3年目になるので、3年間は経過を見たいというところと同じ項目で設定させていただいております。ただ、内容的に見ると確かに評価しづらいというような項目もありますので、これは3年間を比較して課題を見いだして検討した後、またさらによいものになるように、次の3年間たったところのタイミングで具体的にある程度項目が設定できるようにというところで検討を進めていければなと考えております。

ですので、今回は前回と内容が同じような形にはなっているのですが、回答いただきまして郵送していただくか、また、この後私のほうでFormsを作成して、メールのほうで配信させていただきますので、そちらからの回答、どちらかで御協力いただければと思います。

以上になります。

○会長 皆さん、これについて何かありますか。よろしいでしょうか。

では、このアンケートについては、通常に記入の上。

○後期副校長 郵送か、またはこの後メールでFormsとって回答できるように、選択してできるような形で配信しようと思いますので。

○会長 それは同じものですね。

○後期副校長 はい。同じもので。

○会長 この封筒で返却するか、メールで回答するかということでございますね。

○後期副校長 はい。協力いただければと思います。

○会長 よろしいですか。

ありがとうございました。

それでは、アンケートの件に関しては御意見、御質問等がないということで、以上で4番までは終了とさせていただきます。

5 その他

○会長 先ほどその他のところにさせていただきました委員からの御質問で、今年度の至大荘行事に関する総括的な御説明というか、それをしていただきたいということだと思いますが、それでよろしいですね。

○委員 はい。前回口頭で校長からお話しいただいた部分もあるのですが、やはり口頭では分かりにくいところもあったかと思うので、どういういきさつで検討委員会というのが立ち上がり、どういう結論になったのか。至大荘は今年もう行われたので、その評価については先ほど生徒のほうから高評価だったという話もありましたけれども、我々が気にしているのは、伝統行事ということなので、2019年がコロナ前の最終回ですし、昨年は2泊3日で男女別だったと。今年はクラス別に2組ずつやったという経緯けれども、卒業生の参加はなかったといった話だったかと思うのですが。

○会長 まずは御説明を聞いてからということにしていいただければと思いますので、今年度の実施した内容について御説明をいただくということでいいのですね。

○委員 というか、検討委員会から御報告していただくという御説明だったと思うので、その状況を。もう終わったのでいいかどうか私は判断しかねるのですが、資料をもって改めて御説明いただくということだったかと記憶しております。

○会長 前回の議事録がまだ公開されていないので、よく分からないのですが。

○委員 今、手元にあると思います。今日原版、修正前のものは配られておりましたので、

そこにもそのように書かれていたかと思います。

○会長 では、それについて、経緯と結果について御説明をいただけますでしょうか。

○校長 検討委員会がなされたのは、要は学校行事として今後続けていくためには、特に委員会ということですので、生命に直結している部分なので、どうしたら安全にできるかということを検討しなければならないということで、学校のスクールコンプライアンスを非常に専門としている有名な先生、学識経験者の方に来ていただいて、あるいは日本水難救済会からも来ていただき、あとは菊友会と法人九段とP.A.から来ていただいて、その検討を今後進めていくためにどうするかということで検討になったということです。その結果については、ライフセービング協会の協力を得ながら、生徒の安全を確保しながらということで進めているということです。

○会長 その検討委員会というのは在り方検討委員会ですか。

○校長 そうです。

○会長 それは諮問機関ですよ。

○校長 そうです。

○会長 決定機関ではないですよ。

○校長 決定機関ではないです。

○会長 今年の至大荘に関しては、結果について何か御説明はありますか。

○校長 結果については先ほどお話ししたとおりです。

○会長 それ以上の説明はないということで。

○校長 はい。

○会長 委員、どうでしょう。

○委員 といいますと、やはり先ほど言ったとおり、いろいろな行事がある中でも九段の中核的行事の一つだと理解していますので、そのやり方が大きく変わったということで、初めの検討委員会の中でどう話がされていて、どう取り組まれて、結果どうなったかというところはこの会でも御説明していただき、情報共有していただくのがよろしいかなと思っておりました。

ただ、既に区議会の議事録とか教育委員会の議事録でもありましたとおり、同窓会と委員会との関係というのが十分意を尽くされて議論されていたのかということが話題になっていたかと理解しています。我々、菊友会でもあり、今までそういう行事に関わっていた者としても、情報があまり伝わっていないまま一方的に決定が下されたかに聞いていまして、曲がりなりにも支えてきたとしては、やはりちゃんとしたコミュニケーションが必要だったのではないかなという理解をしております。

その場でも企画室長のほうからちゃんと同窓会とはコミュニケーションを取りますという御発言もあったと議事録に残っていましたので、この場でどのような御説明があるのかなと今日は期待して参ったのですけれども、それについては一切触れられていなかったの、とても憂慮しております。

できれば、この行事というのは卒業生がバトンタッチしながらつなげてきた行事なので、いろいろなコンプライアンスの問題等があるという校長の御判断だと思うのですけれども、それを乗り越える何かはなかったのかなと思いますし、教育委員会等での御説明の中にも事実と違うようなお話もあったように認識しています。例えば今回ライフセービング協会の方が3名参加されていて、その前は卒業生5名が参加だったというような話があったのですけれども、全くそれも、20名ぐらいの卒業生が毎日指導に当たっていたりしていましたので、大体7倍ぐらい陣容的には違ったものになっていたり、そのために人がライフセービング協会の人数に制約されていますので、泳ぐ量も平年よりも減っていたといった事実もあったかと思います。

あと、在り方委員会の中でも十分に議論が尽くされていないというのが我々の認識で、最後の7月20日に書面会議という中で正式に決定されたという形になっていて、その場には、当然、書面会議なので、菊友会も法人九段も了承する場がなかったというのに、了承を得ているというような報告が区議会、教育委員会にされていたということは、同窓会としては問題があるのではないかなと考えております。

改めまして、今までのいきさつも含めてこの場で御説明いただけるものかと期待しておりましたけれども、どうしたものかなということで今日も質問させていただいた次第です。○校長 学校行事として適正にするためには、当然コンプライアンスにのっとらなくてはいけないので、そのことを検討していったという課題があるところは、どうしたらうまくいくかということで検討していったというところです。

議会のことについては、特段私のほうから言うことはありません。

○委員 教育委員会のほうとしてはどのような御見解でしょうか。

○子ども総務課長 この後、12月に向けて菊友会さんと教育委員会、あと、九段中等教育学校と三者で、来年度に向けて至大荘行事をどうするのかといったところについてはまた話し合う場を設けさせていただこうということで、菊友会さんと九段中等さんと今いろいろもんでいるところでございます。今後、コンプライアンスの部分と今まで培ってきた伝統の部分のどうやってすり合わせていけるのかといった部分を教育委員会としては考えさせていただきたいと思っております。

○委員 私のほうからは以上です。

○会長 皆さんのほうから何かありますか。

何かあればと思いますが、私のほうからも一言言わせていただければと思います。

今年度の至大荘行事は、コンディションに恵まれて無事に終了したこと、それはきっと保護者の方や生徒さんにとっては何よりだったのだと思います。

しかし、総合的に見たときに、伝統行事としての至大荘、すなわち九段高校を千代田区に移譲する際に、千代田区と菊友会がお約束した伝統行事の継承という観点から評価すると、一概には認め難いという部分もあろうかと思えます。

この学校経営評議会も、前進が学校評議会という名称で2003年6月にスタートいたし

ました。本校には2006年4月1日に第1回生が入学しておりますので、それと同時に学校経営評議会に改称している。名前を変えておりますが、スタートのときにできたいきさつから見れば、学校移譲時の数項目の約束をチェックする機能というのも我々は持っています。

認め難いという判断をしたわけですが、私としてはしているつもりですが、なぜそれがそうなのかというところは、大きく分けて3つのポイントを考えております。

端的に申し上げて、卒業生助手への要請がなく、遊泳指導、遊泳の伴泳といいますか、泳ぐので伴泳と言いますが、陸上ですと伴走という言い方になるでしょうが、という伝統が守られなかったこと。

それから、先ほどの高田委員からの御指摘にもありましたように、質の低下ということ。特に実質的な遊泳、海に入る時間が従来の半分以上に減少し、本来の遊泳訓練、遠泳の体を成していないのではないかと考えています。

それから、卒業生助手の排除を3月頃から内部的には決め、その方針で強引に実行したこと。その決定のプロセスで、教育委員会や区の文教福祉委員会で虚偽とも取れるような不正確な説明が行われたこと。それらを含めて、私は少し疑問点として持っております。

そういう意味では、今、教育委員会のほうからお話がありました12月12日に三者会談をされるということですので、その三者会談を踏まえて、再度適正なプロセスを踏むべく、来年度に向けた検討委員会を立ち上げて論議をしていただければと思っています。これは私としても提案したいなと思っておりますが、いかがでしょうか。

○校長 また立ち上げるということですか。

○会長 そうですね。再度検討していただく検討委員会、要するに結論ありきの委員会ではなくて、真っさらな状態で本当に将来に向けてどうあるべきかということを検討してほしいということでございます。

○委員 私からいいでしょうか。

一保護者として、それから、今年度の至大荘に息子が参加した感想も含めてお話しさせていただきます。

実は、菊友会大会で私がお話ししたときに、後期副校長先生は聞いていらっしゃるかもしれませんが、やはり子供にとってよりよい学校行事にしてもらいたいなと思っています。校長先生がおっしゃっている安全面、コンプライアンスは最低限守らなくてははいけないですし、先生方の働き方改革があつて、先生方も守らなくてははいけないというのは重々承知した上で、その中でできる理想系は何だろうなというのを追求していただきたいなと思っています。我が子がもうないからとかは全く関係なしに、やはり九段の生徒たちにとってよりよい学校行事にしてもらいたいというのが、保護者会からの要望です。

会長からあつたように、再度検討委員会を立ち上げることには賛成いたします。ライフセーバーの人数とか、卒業生の人数が7分の1になったというような伴泳ができていないようなお話なども含めて、今年は天候がよかったから大丈夫だったけれども、天候がよく

なかったら安全面が確保できていないというのであれば、やはり保護者としては大変心配です。

でも一方で、冒頭に申し上げたとおり、コンプライアンスだったり安全面、ライフセービング協会という専門家も含めつつ検討していただいたことは保護者として感謝しつつも、よりよい形にする方法があるのであれば、私自身が至大荘行事にあまり詳しくないですが、こうして菊友会というOBに我々はたくさんアドバイスをいただいたり、子供たちも助けていただいたりしているので、やはり伝統行事としてよりよい形にしていきたいなというのがP. A. としての意見です。

以上です。

○会長 ほかにほろしいでしょうか。

○委員 私は基本的には部外者みたいなもので、正直に言って何でもめているのだらうとかというのがございます。ですので、うまく子ども総務課長はすり合わせをして、校長先生も加えて軟着陸をしていただければと切に願っております。

以上でございます。

○委員 やはり論議の内容は正確に情報を伝えるということが必要ではないかなと思います。

全然関係ない話かもしれないのですが、私はある会社のOBなのですが、OB会の事務局とかそういうのをやっていたけれども、伝統とかそういうのというのはどんどん変わって行って、昔のとおりになかなかできない。あるとき急に変わってしまって、でも、それは今の時代に合ったような形で現場の人が考えてやられていることなので、OBとしてはそこになかなか物が言えなかったり、ただし、1つだけ、情報は正確に頻繁に流してくださいねみたいな話はしたことがありますけれども、そんなような形の中で、今おっしゃられたようにうまくまとめて、上手に生徒さんたちのために伝統を引き継ぎながら、安全も考えながらやっていただけたらいいなところまでまとめてやればなど。

○会長 検討をきちんとして、その検討の内容について正確にこの学校経営評議会にも報告をしていただきたいし、そこで納得のいく内容で推進していくのが、やはり委員がおっしゃったように生徒のためというところが前面に出てくるのかなと思います。

よろしいでしょうか。

検討委員会の設置をしていただいて、再度御検討いただくということで、教育委員会のほうはそれでよろしいですか。12日の打合せの中でそれは決められていくことだと思います。

委員 我々もまた皆さんと話し合いをさせていただきながら、どういうふうに進めるのかというのは決めさせていただければと思います。

○会長 学校のほうはよろしいでしょうか。

○校長 学校は検討委員会を立ち上げる必要はないと思っていますから。もう終了していますので。

○会長 必要がないと。

○校長 はい。学校としては終了しているので、コンプライアンスを全て考えて、今の生徒のために一番いい方法であろうということでやっていますので、あとは教育委員会と話し合いの中で決めていきます。

○会長 では、12月の検討会というか、その中でということになりますね。

○子ども総務課長 12日かどうかはまだ、再度日程調整をさせていただければと思います。申し訳ございません。

○会長 その中で決めていただくということになろうかと思いますが、学校経営評議会としては、検討委員会を設置して、その経過も含めて再度報告をきちんとしてほしいという要望を明確にしたいと思います。

6 閉会

以上で第2回「学校経営評議会」を閉会といたします。皆様、どうもありがとうございました。